



熊本支部報

(公社) 日本山岳会熊本支部



新緑の長者原（遠景は三俣山・硫黄山・星生山）

目次	ページ
1 支部長新任にあたり 自己紹介とご挨拶	支部長 土井 理 ②
2 三宅厚雄さん役員就任挨拶	三宅 厚雄 ③
3 令和4年度総会議事録	③
4 令和4年度支部行事予定・同好会行事予定	⑤
5 花を愛でる会（清栄山）春の山行報告書	城戸 邦晴 ⑦
6 里山低山クラブ 観海アルプス(路嶽・白嶽)報告書	戸上 貴雄 ⑧
7 春期森林保全巡視登山（雁俣山）報告書	田北 芳博 ⑩
8 春の登山教室（大崩の辻）報告書	三宅 厚雄 ⑫
9 写真同好会 北九州「小倉平尾台」報告書	中村 寛 ⑮
10 永谷誠一様（会員）の訃報に寄せて	顧問 工藤 文昭 ⑰
11 森林保全巡視報告書提出状況	田北 芳博 ⑳
12 事務局より 会員の異動	山本 直 ㉔

1 支部長新任にあたり 自己紹介とご挨拶

支部長 土井 理

自己紹介とご挨拶

2022.04.17 日の日本山岳会熊本支部総会で、支部長にご推挙頂きました 土井 理 です。

工藤文昭 元支部長、松本莞爾 元支部長、中林暉幸 前支部長の後を継ぎ、諸先輩方を差し置いての歴史ある熊本支部の支部長への就任に、現状の時間を作る事が出来難い日常に、大変戸惑っているところです。現在 61 才の若輩者ですが何卒宜しくお願い申し上げます。

日本山岳会はマナスル登山を筆頭に我が国の登山の歴史に大きく寄与している事は言うまでもありません。最近の登山者人口は増加していますが、山岳会に所属している方の数は減少の一途です。山岳会所属のメリットを見出せない為であろうと考えます。

山岳会が何をしてきたかを考えると、山の知識を皆で会得し、登山技術を会得し、難易度の高い登山や登攀ができる様になり、難易度の高い登攀を目指し実行してきたのではないかと思います。諸先輩方の知識や登山技術を、これから登山を試みる方々に教授し、受け渡しができれば山岳会として役に立つのではないかと考える次第です。

山の楽しみ方は人や年齢や体力により様々です。自然の草花、自然の絶景、四季の山々、岩壁登攀、氷壁登攀、積雪期登山、高所登山、ルート工作、ピークハント、トレイルラン 色々な登山があります。この全てに知識や技術や道具が必要であり、使いこなせなければ安全な登山はできません。山道を歩くのが登山では無く、自然を山を心おきなく楽しむのが登山だと考えます。登山は家から出て安全に家に帰って来るまでが登山です。危険な山にわざわざ行く訳ですから、登山の途中で亡くなるのは自殺と同じ事となります。私が考える登山は、山との命のかけ引きに常に勝ち続ける登山であるべきだし、そうありたいと考え登山しています。登山は究極の個人スポーツです。しかし一人で行けない難易度の高い登山にはバディ(buddy)相棒が必要になります。このバディは命を預ける相棒です。知識や技術を、そして体力を高め合い、生涯の友になるであろうバディを得て、心おきなく自然を楽しみましょう。

私の登山はおそらくは、中学時代の市房山登山が最初かもしれません。大学時代に日本の北アルプス、南アルプスあたりを一人でうろうろしています。今考えると登山では無く山歩きでした。世界的に山岳医と言う分野がある事を知り、日本で認定試験が開始されるとの事。試験を受ける事としました。受験者は、エベレスト登山隊の医師、ムスターグアタ登山で低体温凍傷になり足趾の無くなった医師、山岳ガイド資格を持った医師、K2 登山隊の医師、バリエーションを単独で登攀している命知らずの医師等 とんでもない医師の集団でした。試験の難易度は高く初年度は当然合格できませんでした。何とか技術や知識の習得ができないかと考え、国際山岳ガイドの長岡健一さんに指導を仰ぎました。長岡さんは元 谷川岳山岳救助隊の隊長で、国際山岳ガイドの認定試験官で、日本国中の国際山岳ガイドの先生です。長岡先生から強力な罵倒の様な指導を受けての現在があります。

知識と技術と体力は裏切りません。是非皆で知識と技術を共有し、多くの方に山を自然を楽しんで頂きたいと考えています。多くの方の山の楽しみ方がアピールできる様な山岳会を目指したいと思いますので皆様宜しくお願い申し上げます。

土井 理

2 新役員就任挨拶

三宅厚雄

今年度の役員改選によりすでに会報で御存知の事と思いますが改めて一言、就任の挨拶を申し上げます。私は、日本山岳会加入は、やや遅れましたが、独身の頃から野外活動が大好きで、勤務のない週末にボーイスカウト活動にリーダー（隊長）として青少年育成に貢献したのが事の始まりです。すでにその少年達が55歳を過ぎて多方面で活躍しています。あれから半世紀があつという間に流れ、昨年、古希を迎えました。過去の経歴は60周年記念誌で詳しくは述べていますので、言及は避けたいと思います。ご了承下さい。

現在、私は阿蘇の県立某高校で非常勤講師、爺ちゃん教師として教壇に立ち、教えながら、逆に生徒から学んだり、元気を貰ったりして仲良く楽しく余生を過ごしています。眠る子がいれば、山の写真をみせたりすると話が弾み、ついには一時間終始してしまうこともあります。

若い頃は、登山はもちろん、ナイトハイク、オリエンテーリング、キャンプ等野外活動に家族ぐるみでのめり込んだものでした。現在は、日本山岳会の古道プロジェクトに参加し、熊本支部調査対象の阿蘇の山岳信仰と峰入り行者、山伏の修験道古道の調査の為、聞き取りや文献収集、編集に取り組んでおります。全国版が完成するのは5年後になりますが皆さんと共に散策研鑽する機会も、設けたいと思います。

筆舌に尽くしがたいですが、日本山岳会熊本支部の伝統と絆を大事にして、皆様と共に大いに山登りと人生を楽しみましょう。今後とも宜しくお願い致します。

3 令和4年度日本山岳会熊本支部総会議事録

日時 令和4年4月17日(日) 10時00分～11時20分

場所 熊本県婦人会館 3F大会議室

1.開会

本会は、日本山岳会熊本支部規約第13条に基づき、支部会員数34名に対し、出席者14名・委任状14名・合計28名の出席をもって、適法に成立した。

2. 議長就任

議長に中林支部長が就任した。議事録署名人も兼ねることとした。

3. 議案審議

第1号議案

令和3年度事業報告

事務局から、特に昨年度はコロナ影響で一般募集を見合わせ、蔓延防止措置発令期間中は同好会行事も含め中止するなど、支部行事の実施がほとんどできず、共益事業は総会のみ、公益事業は干支の山（牛斬山）、秋の森林保全巡視登山（三国山・国見山）、秋の登山教室（三俣山）の3行事のみ、同好会行事も一部の実施に留まった旨報告した。

合わせて、120周年記念事業としての古道調査として、支部報に掲載している向霧立越の調査を行っている旨報告し承認された。

第2号議案

令和3年度収支決算報告

事務局から、昨年度はコロナ影響で支部行事の実施ができず、そのため、公益事業、共益事業の予算と実績との差異となった旨報告し、以上の後、監査担当から収支決算が適正であった旨報告があり、原案のとおり承認された。

第3号議案

令和4年度事業計画

事務局から次の計画等の説明を行い、コロナ禍で実際実施するかどうかは役員会へ一任頂くことで承認された。

本年度は、昨年末実施したアンケートに基づき、希望が多かった、「九重山系、霧島山系、祖母山系」から「春の例会として高千穂の峰」「秋の例会として大船山」の登山を追加で計画し、冬山を1回に集約して計画した。

本部行事として、全国支部懇談会が10月横浜市で開催される。

日本山岳古道調査として阿蘇山（外輪山、修験者の道）が選定され、今後調査を実施する。

第4号議案

令和4年度収支予算

事務局から説明を行い、原案の通り承認された。

特に、山岳古道調査について、現在個人負担で調査を行っており、ガソリン代等の負担も大きいことから、公益事業の支出を100,000円増やし、その費用に充てることとする。

第5号議案

支部規約改正について

事務局から会費未納者への対応を支部規約に明記することについて説明し、原案のとおり了承された。

なお、会員からの質問で、昨年度は年末に未納者に督促文書を送付した結果、現在は3名であり、4月に本年度分会費の納付を依頼するに当たり未納分も一緒に請求する旨回答した。

第6号議案

個人山行計画等の支部通信への掲載について

事務局から趣旨を説明し、議論の結果原案の通り承認された。

第7号議案

役員改選、委員会委員長、ならびに同好会世話役変更について

下記の通り承認された。

○熊本支部執行部役員

顧問	工 藤 文 昭（8190）	
顧問	松 本 莞 爾（8411）	
顧問	中 林 暉 幸（14305）	
支部長	土 井 理（15663）	（新任）
副支部長（支部報担当）	田 北 芳 博（14459）	（新任）
副支部長	城 戸 邦 晴（14831）	（新任）
副支部長	松 本 博 美（15432）	（新任）
常務委員（事務局長）	山 本 直（15435）	（再任）
委員	安 場 俊 郎（13889）	（再任）
委員	池 田 清 志（14310）	（再任）
委員	三 宅 厚 雄（15786）	（新任）
委員（支部通信担当）	戸 上 貴 雄（16457）	（再任）
委員	中 村 寛（16610）	（再任）

監査 橋 本 悦 子 (1 4 7 7 9) (再任)

監査 岩 下 律 雄 (1 6 6 0 9) (新任)

○日本山岳古道調査委員会委員長

J A C 全国山岳古道調査担当 安 場 俊 郎

○同好会世話役

花を愛でる会世話役 城戸 邦晴

里山低山クラブ世話役 池田 清志

4.閉会

以上の通り全ての議事が終了し、本総会は閉会した。

本総会の議事の結果を証するため、議事録を作成し、議長及び議事録署名人は署名捺印する。

令和4年4月17日

議長 議事録署名人

4 令和4年度支部行事予定・同好会行事予定

令和4年度支部行事

No.	月日	曜	月日	曜	内 容	種別	担当
1	4月17日	日			支部総会(於:県婦人会館)	共益	事務局
2	4月23日	土			春の森林保全巡視登山→雁俣山登山道整備	公益	田北
3	5月15日	日			春の登山教室(一般募集)(大崩ノ辻/黒岩山/泉水山)	公益	三宅
4	5月29日	日			春の例会「高千穂の峰(ミヤマキリシマ)」	共益	
5	6月5日	日			登山技術講習・岩登り:岩野山	公益	安場
6	7月30日	土	～	7月31日 日	登山技術研修・沢登り	公益	安場
7	8月11日	木			第6回山の日登山祭	公益	池田
8	8月20日	土			ビールパーティ	共益	事務局
9	9月11日	日			千支の山(虎石山)	公益	
10	9月未定				北アルプス遠征:	共益	中村
11	9月24日	土	～	9月25日 日	九州脊梁トレイルラン大会支援	公益	松本
12	10月15日	土	～	10月16日 日	ファーストエイド講習会	公益	土井

13	10月23日	日				秋の例会「大船山(紅葉)」	共益	中村
14	11月3日	木	～	11月4日	金	宮崎ウエストン祭/記念登山	公益	事務局
15	11月13日	日				秋の森林保全巡視登山(三の岳登山道整備)	公益	田北
16	12月3日	土	～	12月18日	日	山の写真展	公益	田北
17	12月11日	日				登山報告会	公益	田北
18	令和5年 1月14日	土				新春晚餐会	共益	事務局
19	2月11日	土	～	2月12日	日	冬山登山講習会	公益	土井
20	3月					宮崎支部との交流会	共益	事務局

古道調査

No.	月日	曜				内 容	種別	担当
1	11月12日	土					公益	未定
2	12月10日	土					公益	未定
3	2月25日	土					公益	未定
4	3月18日	土					公益	未定

令和4年度同好会行事

①花を愛でる会

No.	月日	曜	内容	実施状況
1	4月7日	木	清栄山(オキナグサ)	実施済み
2	5月15日	日	大崩ノ辻/黒岩山/泉水山	実施済み
3	5月29日	日	春の例会	コロナ中止
4	7月17日	日	指山(ミズチドリ等)	実施済み
5	8月28日	日	蓼原湿原(マツムシソウ)	7/17 指山と同時に実施のため中止
6	3月2日	木	九重黒岳男池周辺(ユキワリイチゲ)	

②写真同好会

No.	月日	曜	内容	
1	6月12日	日	平尾台	実施済み
2	10月23日	日	秋の例会	

③里山低山クラブ

No.	月日	曜	内容	
1	4月20日	水	観海アルプス	実施済み

2	11月11日	金	菊池溪谷
3	12月10日	土	八丁山八峰山
4	1月15日	日	大津山二城山
5	2月4日	土	櫛山
6	3月4日	土	烏山黒岳帽子山

④トレーニング同好会

No.	月日	曜	内容
1	12月18日	日	鞍岳
2	1月22日	日	金峰山

⑤キャンプ同好会

予定なし

5 花を愛でる会 清栄山春の山行報告

城戸邦晴

4月7日(木) 天候；晴

8：00 大津学習センター駐車場集合、3台の車に分乗して出発。9：00 黒岩峠着。

9：20 清栄山へ出発、急な道を登ると黒く焼けた牧草地が眼下に見えた。牛の歩いた跡がはっきりと見え指紋のような模様に。スマレが見られ、清栄山9：50着。山頂からは祖母山、傾山が意外と近くに見えた。さらに宮地嶽へ向かう。土の露出した登山道上に目当てのオキナグサを発見し、皆大喜び。10：35 宮地嶽着。うっすらと春霞がかかっていたが、根子岳、高岳はじめ阿蘇の山々が一望のもと。そこにはツクシショウジョウバカマが崖縁に咲いていた。

11：00 下り開始、11：20～12：00 清栄山で昼食休憩。12：20 黒岩峠に戻ると、そこにもショウジョウバカマが沢山咲いていた。一部の人はさらに南側に咲くオキナグサを見に足を伸ばした。帰りには全員で南阿蘇ビジターセンターに立ち寄った。そこは見事な桜が待っていた。根子岳と桜をバックに記念撮影、その後、資料館内を見学、1：50に予定を終了し、大津学習センターに向かった。総じてゆっくりの行程で、目当ての花を見られて皆さん満足の山行だった。



清栄山山頂にて

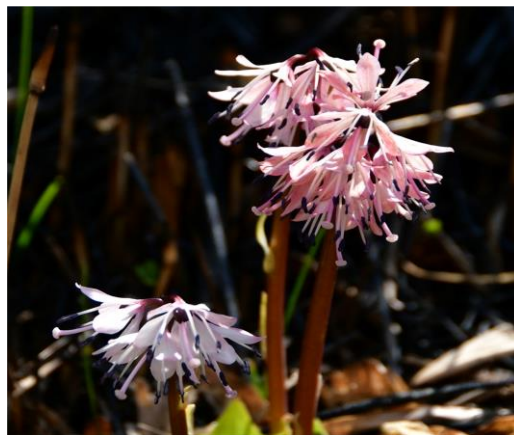


宮地嶽に向かう登山道にてオキナグサ

(観察できた花) オキナグサ、ツクシショウジョウバカマ、フデリンドウ、スマレ、キスマレ、タチツボスマレ、ジロボウエンゴサク、ヒゴスマレ、エイザンスミレ、スズメノヤリ、キジムシロ、オオイヌノフグリ、フキノトウ、セイヨウタンポポ

(参加者)

中林暉幸、石井文雄、田北芳博、池田清志、三宅厚雄、坂本雄二、脇元公男、末永保則、多田和子、松尾重勝、木下洋子、城戸邦晴、計 12 名



ツクシショウジョウバカマ



休暇村南阿蘇前にて 桜と根子岳を背景に

6 里山低山クラブ 観海アルプス（麓嶽・白嶽）報告

担当/戸上貴雄、写真/池田

- 実施日：2022（令和4）年4月20日（水）
- 集合形態&参加者 14 名
 - ① ハンズマン画図店 7:20 集合 8 名～2 台に乗合せ出発
 - ☞ 石井文夫・植木隆俊・植木啓子・田北芳博・戸上貴雄・中林暉幸・橋本悦子・森美代子
 - ② 今泉登山口直接集合 6 名 5 台
 - ☞ 池田清志・池田のり子・本田敦子・前田節子・松本博美・安場俊郎
- 参考記録（ヤママップ利用）

全所要時間：7 時間 13 分、歩行距離：9.7 km、単純標高差：約 360m、累積標高差：約 830m

○ タイム（トップを務めた戸上の時刻）

09:20 今泉駐車場を出発～ 09:44 舗装道路から山道へ～ 09:59 支尾根(送電線鉄塔下)～

10:21 主稜線九州自然歩道に出る～ 10:58 展望所東屋～ 11:08 落嶽分岐～ 11:23 落嶽山頂
319.7m～ 11:31 落嶽分岐～ 11:49 白嶽分岐(四方路交差点)～12:17 キャンプ場横の白嶽取付
地点～ 12:36 白嶽山頂 372.4m～（弁当タイム・写真撮影等）～

13:17 下山開始～ 13:31 湿地帯に入る～ 13:41 鋸嶽分岐～ 14:08 白嶽分岐(四方路交差点)～
14:32 落嶽分岐～ 14:34 展望所東屋～ 15:19 支尾根への降り口地点～

15:42 支尾根送電線鉄塔下～ 16:08 舗装道路～ 16:23 出発地今泉駐車場到着～ 解散

※ 白嶽山頂下山時から石井・安場の2名は別行動（矢岳神社・鋸嶽・小鳥峠へ）



○ 概要

天気も良く朝のうちは快適だったが、次第に気温が上がり汗を掻くようになった。白嶽山頂からドルメン・矢岳神社・鋸岳山頂を巡る予定だったが、全体の状況を考慮してコースを一部変更し、白嶽山頂から木道階段を下り湿地帯～四方路交差点へと短縮させた。

距離的には 600m ほどしか短縮出来なかったが、時間節約・疲労軽減OKだった。

アップダウンが連続する区間もあったが、概ね不知火海の絶景を眺めながらの稜線歩きであり、さらにはアオダモ・オンツツジ(?)・コバノタツナミソウ・コバノミツバツツジ(?)・サルトリイバラ・ハクサンボク・ヒメコウゾ・ボロボロノキなどの花を楽しむことも出来て、和気あいあい

7 令和4年度春期森林保全巡視登山（雁俣山） 報告書

（カタクリとヒカゲツツジの花をもとめて）

報告者 担当 田北 芳博

記

期日 令和4年4月23日（土）

場所 雁俣山（1315m） 八代市・美里町

1/25000 地図 畝野・葉木

参加者 （9名）中林暉幸・池田清志・田北芳博・橋本悦子・山本直・三宅厚雄・岩下律雄・浦川留美・前田節子

行程 佐俣の湯集合発8：25→二本杉峠駐車場9：05→登山開始9：25→黒原分岐9：39

→カタクリ群生地10：10～10：25→黒原への分岐10：43→雁俣山山頂11：02→下山開始11：15→二本杉登山口12：20→佐俣の湯13：30

経費 300円 佐俣の湯から二本杉峠の往復交通費。

自家用車の提供 中林暉幸・三宅厚雄・田北芳博
登山の経過

登山日の数日前までは天気予報も晴れで安心していた。登山前日に天気予報も下り坂の予報となったが、あまり雨に降られないだろうと思っていた。ところが当日早朝の予報で朝から雨の予報になっていたので驚いた。まだ雨は降っていないし、直前での計画中止もしにくく、少しは雨に降られるかもしれないが、今日はカタクリ・ヒカゲツツジの花の一番の見頃に間違いなく、予定コースを変更して最短コースで登山を行うこととした。私も含め9人の参加者があり盛況と思えた。

予定時刻前には佐俣の湯に9名集合、3台の車に乗り合せて二本杉峠登山口へ向かった。二本杉でも登山開始まで雨は降らず、おのこの自分なりの雨対応で登山開始した。カタクリ自生地まで登山開始50分で到着。果たしてカタクリの花は今が盛りに咲いていた。しばらく写真撮影に熱中した。熱心に撮影した者も多く、いい写真が撮れた



群生地のカタクリの花



山頂のヒカゲツツジ



急登の始まり、ちょっと休憩

のではないだろうか。明日以降も天候が悪いというので、多分雁俣山の今年のカタクリの花鑑賞は今日が最適であったかもしれないと自分に言い聞かせた。

山頂手前は急登であったが、まだ雨も降っておらず、橋本さんを先頭にゆっくりと登頂した。

山頂に登頂すると待ちきれなくなったように雨が降り出した。幾分強く降り出し、ゆっくり昼食もできる状況ではなかった。山頂のヒカゲツツジは今日が盛りの満開であったが、集合写真を撮り、すぐの下山となった。

雨の中、下山は往路を引き返し、ほとんど休憩もなく12:20分には登山口に下山した。

下山後は服の着替え、山頂でとれなかった昼食、二本杉峠の売店での買い物など面々であった。

朝の天気予報からして雨の降り出しは遅れたようであるが、山頂登頂後、雨が降り出した後は降り止まなかったのは残念であった。登山参加の皆様、大変お疲れでした。

このコースはほとんどが国有林である。黒原集落との分岐には日本の緑・国有林看板の看板があり、雁俣山植物群落保護林と記載されている。ブナやカエデを主体とした中に、モミ、ツガなどが混在する天然広葉樹とある。カタクリ自生地付近は土地が崩れやすく、雨が降るとぬかるんで歩きにくさを感じるところがあった。カタクリの花も思ったより多く自生していたので満足であった。



日本の緑・国有林看板



雁俣山山頂集合写真



熱心な撮影者 1



二本杉峠売店前の集合写真



熱心な撮影者 2

8 春の登山教室（大崩の辻）報告書

担当者・報告者 三宅厚雄

副担当 田北芳博

はじめに

行き慣れた山ではあるが、終息の見えないコロナ禍の影響下、遠方までの集合解散、そこまでの自家用車での運転による道中の事故、怪我、骨折等の配慮を踏まえ、下見登山や救護車も特別に配備する等万全の体制を整えての山行であった。結果的に皆さんが無事に帰宅できたことが何よりも喜びであったと安堵しております。ご参加の皆様、お疲れ様でした。

期日・集合 令和4年5月15日（日）現地

集合（長者原登山口） 午前8時

場所（目的地） 長者原(1031m)～下泉水山(1296m)～上泉水山(1447m)～大崩ノ辻(1458m)～黒岩山(1502m)～牧ノ戸峠～長者原(1031m)（縦走登山）

参加者 11名（敬称略、順不同）

中林暉幸 田北芳博 松本博美 橋本悦子 山本 直 土居 理
三宅厚雄 岩下律雄 前田節子 本田敦子 末永保則

行程 長者原（出発 8:20）⇒下泉水山(9:24-9:45)⇒上泉水山(10:18-10:34)
⇒大崩ノ辻(11:19-12:02)⇒黒岩山(13:05-13:22)⇒牧ノ戸峠(13:52-13:58)
⇒長者原（到着 15:08） その後、解散（15:30）



なだらかな草原の縁を登る

登山の経過

天候を気かけ、直前の予報では曇りのマークであったが予定通りに実行した。私は現地集合が早いので自宅より直行するより距離と時間を縮めようと前日夜、阿蘇宮地のアゼリア温泉センターで車中泊し、翌日の早朝に出発、7:15 分には集合場所の長者原泉水山登山口駐車場に到着、参加者を待った。一番目の到着は前田さんだった。受付を完了し、出発式開始、土井支部長の挨拶、自己紹介、ラジオ体操をして田北さんに先導してもらい、8 時 20 分に長者原登山口を出発した。

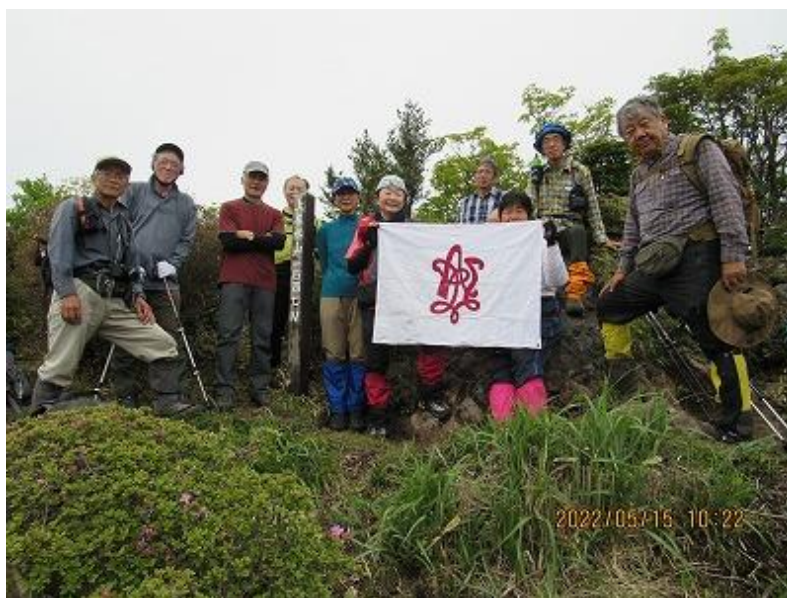
最初の急登で息が上がる思いだったが、高原の緑地をトラバースして約 4 5 分

下泉水山の登山口付近で休憩後、2 番目の急登を登り上げ、下泉水山に到着した (9:24)。岩場の頂上に立つと、霞んでいたが九重連山や涌蓋山、万年山、漁師山、合頭山等眺望は最高であった。約 2 0 分休憩を取り、写真撮影を済ませ、馬酔木の樹海の中をくぐり抜け変化に富んだ道を歩いて行くと視界が開け、今度は東方に九重連山、三俣山、中岳、硫黄山飯田高原が一望、こちらも圧巻だった。約 35 分後第三の急登を登り上げ、上泉水山に到着した(10:18)。少

し早いのかミヤマキリシマがちらほらピンクの花を咲かせていた。春リンドウも道端に顔を覗かせ、登山者に愛嬌を振りまいていた。頂上の岩場で約 20 分休憩をとり、集合写真を撮り、次の目的地大崩ノ辻に出発。縦走路から右に道を辿ると大崩ノ辻方面に向かう。人があまり入っていないのか踏み分道が幾重にも分かれており、下見をした時、田北さんが更にテープを着けていた為、迷うことなく一つ目のピークを越え、二つ目のピークの大崩ノ辻に向かった。一つ目のピークはミヤマキリシマは虫食がひどく花は皆無である。なるほど、岩場に尺取虫がくの字形になって動き回っていて、ゾ〜とした。さらにその山の下りに差し掛かると不揃いの岩石が風穴みたいになり、天然の箱庭風で風情があり、足元に気を遣っていると前から歓声が聞こえた。目を向けるとシャクナゲの花が見事に咲き誇り、ピンク色の花を誇張していた。立ち止まって、カメラを向け天然の花の品評会もどき自生の花を撮りまくった。

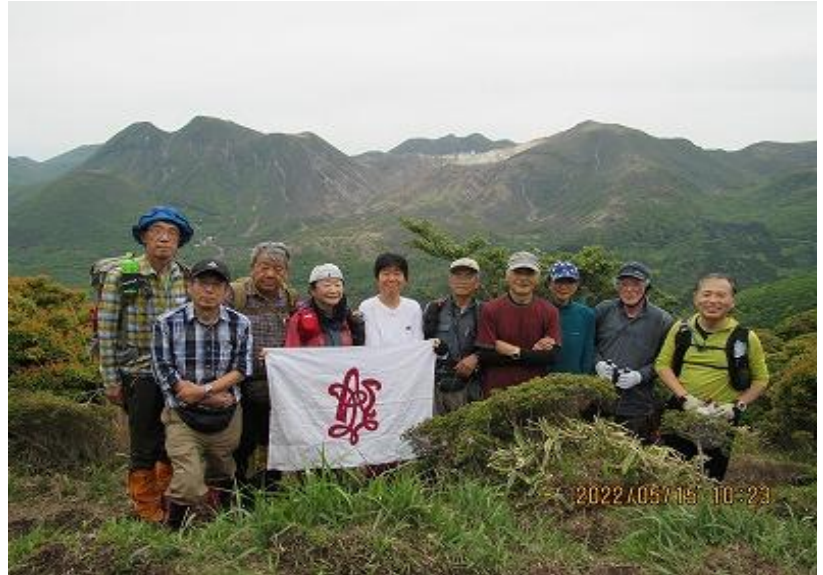


下泉水山にて



上泉水山頂上にて

谷を下り、さらにもう一つのピークを登り上げると大崩ノ辻の山頂（1458m）に 45 分後到着した（11:19）。汗を拭き、眺望を楽しみながら弁当を広げて昼食を取り、空腹を満たした。食べ終わる頃小雨模様になり、雨具を着て黒岩山を目指した。先程のシャクナゲの自生地は、登りが急なので平易な回り道ルート of 灌木と笹の茂みを辿り、再び縦走路に出て約 60 分後に黒岩山に到着した。期待していた頂上のシャクナゲは残念ながら過ぎていてがっかりした。大分から来た女性にシャッターを押してもらい写真撮影、黒岩山を後にした（13:22）。もう一つのピーク展望広場では、沓掛山や星生山、肥前牙城の展望が抜群でバックにして写真撮影をした。それから約 30 分かけて牧ノ戸峠まで一気に下山。牧ノ戸登山口に到着する（13:52）や達成感を表わすポーズを取り、全員で写真を撮る。暫くトイレ休憩を取った後、九州自然遊歩道を約 1 時間かけて下り、長者原の出発地に全員が無事に到着した（15:08）。拍手して無事完歩の喜びを分かち合った。参加の皆様お疲れ様でした!!



大崩の辻にて



大崩の辻のシャクナゲ



イワカガミ



ミヤマキリシマ





黒岩山山頂にて

9 写真同好会 北九州『小倉平尾台』

担当者・報告者 中村 寛

日 時 令和4年6月12日（日）

参加者 中村寛（参加者）石井、安場、田北、橋本、浦川、森尾、渡辺、前田
（一は車提供者）（敬称略）

カルスト台地の平尾台は、沢山の石灰岩のピナクル（石塔）と幾つかの鍾乳洞、大きなドリーネがあり、2月末には野焼きが行われ、阿蘇と同じ様に草原が維持されている。その為植物の種類も多く、春から秋にかけて咲く花を求めて訪れる人も多い。

今回は羊群原、ドリーネ、そして鍾乳洞を見てもらいたく案内しました。国定公園に指定されていて、他の山で見かけるペットボトルやマスクの落し物がほとんど無い。梅雨入り後の最初の日曜日で少し曇り空でしたが、気持ちいい登山、観光が楽しめました。

6時半 北区役所集合

2台の車に分乗、出発。途中基山サービスエリアで休憩する。

8時半

平尾台、茶ヶ床園地着。駐車場は満車だったが、運よく2台の車が直ぐに出ていき、入れ替わる事ができた。打ち合わせの後、各自で準備運動後出発した。
ここは見晴らしのいい所に東屋（あずまや）が幾つか設けられ、休憩や食事に利用できる。また良く清掃されたトイレもある。

10 時 10 分

大平山（おおへらやま）着
東側の登山口、吹上峠方向へ向かい、大きなドリーネを左手に見て途中から右手の羊群原に向かって登った。途中桑の実を見つける。まだ養蚕が盛んだった頃は、田舎には沢山有り、黒くなった実を食べていた。登るにつれ白い沢山の石灰岩のピナクルが現われる。その間を石に触れながら歩く。羊群原のここに



1 匹の羊を放ったら、【ウォーリーを捜せ】と同じように捜すのは難しいだろう。暫くは石灰岩に挟まれながら歩く。ここにある石灰岩は大きくても人の背丈程しかない。登ってきた先の南側に石灰岩の採石場の三菱マテリアルが見える。五木寛之の青春の門は、筑豊のボタ山だが、何故か私は勘違いして、この山を連想してしまう。以前は、高かった山がもう削り取られて面影もない。登っては何度も後ろを振り向く。ここは風景を楽しみたいのでゆっくりと写真を撮りながら歩く。頂上では、ここで初めて皆の記念撮影。まだ皆、余裕がある。羊の様な石灰岩のピナクル（石塔）中を大平山に向かって登る。ここで問題、石灰岩が、羊でなく兎の群れと名がつけられた場所のある熊本の花で有名な山は？答えは最後に。大平山頂上。まだ登山は、始まったばかり、皆さん元気です。この後大きなドリーネの淵を下って登ります。

11 時 四方台の分岐に着く。

大平山から下り、また急な坂を登る。かなりの登り。ペースがかなり落ちた。まだ先にもう一つ更にキツイ急坂があるが、黙っておこう。実はここは大きなドリーネの淵を歩いている。吸い込まれそうなドリーネの淵の坂を登っている。石灰岩が沢山斜面にへばりついて踏ん張っているが、いつかは吸い込まれてしまう。底は鍾乳洞へと繋がっている。ナウマン象の骨も発見されたが、斜面の石灰岩が吸い込まれるのは定点観測しても随分先の事だろ



う。ドリーネに皆の足が止まり写真を撮る。大きなドリーネだが地図では小穴とある。反対側が大穴とある。ここで健脚と差が付き始めた。遅れた組は安場さんがリードしてくれる事になり、私は先を行って先行者とここで皆を待った。ここは、名前の通り四方が見渡せて風もあり気持ちいい。皆が追いついて休憩する。目の前にもう一つ長い急坂が見える。もうひと登り、そこが貫山。



皆、足を止め振り返る。大きなドリーネが口を開けている。中央奥は採石場、写真中央の右の尾根を伝って下り、四方台に向っての登りの途中、何度も振り返った。石灰岩は雨、地下水で溶ける為溶解してこの様な窪地になる。

貫山頂上。お疲れ様、ここでゆっくり休んで食事をとりました。近くには三角点が藪の中にある。注意しないと見つけれない。これからは、下りだけ。

12時 貫山（ぬきさん）着。

頂上には沢山登山者が眺めを楽しみながら食事していた。少し霞んでいたが南東には行橋市が、その先には周防灘が見える。東には北九州空港が浮かんで見える。食事と休憩をゆっくりとり、三角点に触れて下って行った。貫山頂上からは全景が見渡せて眺めが良い。昼からの下山は急坂に足元に注意しながら四方台へ降りていった。



12時50分 四方台着。

前に来た時は、沢山のパラグライダーが見られたが今日は一人だけだった。ここからは岩山へ、羊群原と違い屏風の様な一枚岩の大きな石灰岩が見れる。少し休んで登山口の茶ヶ床園地の下って行く。若い二人が石灰岩の中で見え隠れする。この近くにキス岩がある。キスはしないでここはパスしました。

13 時 45 分 茶ヶ床園地着

戻ってくると、駐車場はまだ満車。狭い道に窮屈そうに何台も車が止められている。毎回ここは駐車場が一杯になる。もう少し広い駐車場が欲しい。ただ休憩場所が沢山あり、トイレもあるので、軽いハイキングで花などを楽しむ人も多いようです。ここで登山靴を履き替え軽装になり鍾乳洞見学に向かう。

14 時 00 分 千仏鍾乳洞着。

直ぐ近くにあるので 5 分程で着く。ここも満車に近い。これからは観光、気分は楽。鍾乳洞は長さ 1200m あるが、そこまでは行けず、900m で折り返しになる。照明のついた狭い水の中を無料で貸し出さるサンダルを履いて片道 20 分程歩く。楽しいような声が後ろから聞こえる。若い二人連れが多く手を繋ぐだけでも楽しそうだった。ユーミンの”あの日に帰りたい”が聞こえてきそうだった。登山と観光、一日を 2 回楽しめました。皆さんお疲れ様でした。



登山後の楽しみは、鍾乳洞。温度 16℃ で気持ちよく、水は更に冷たかった。



流れる水の中を歩くので、膝まで裾を上げて歩いた。(答、仰烏帽子の兎群石)

10 永谷誠一様(会員) の訃報に寄せて

工藤文昭

追 悼

会員(12909)であり、元日本トライアスロン連合副会長永谷誠一様〈95歳〉が7月31日にご逝去されました。謹んで哀悼の誠をささげます。

5年前だったか、永谷さんにお会いした時、「わたしやですな、山を下るとき、高低差が分らんで、ひっくり返ったりして困つとります」とお聞きしました。永谷さんといえば熊本を代表する鉄人で、いつお会いしても万年青年、ざっくばらんに山の情報や最近の活動状況、世相まで親しく話していただきました。予期せぬお話に私「永谷さんも年は取るなはっとですか?」と正すと、「緑内障はいかんですな」と返ってきました。その頃から支部の集会で見かけることは少なくなりました。熊日の記事にあった老衰にも驚愕しましたが、昔は数々の鉄人レースを不撓不屈の精神と体力で乗り越えてこられた永谷さんですから、信じ難いことでした。

永谷さんがJAC熊本支部に入会されたのは1998年8月でした。若い頃から熊本で一番古くて大きな「熊本アルコウ会」に入会され活発な登山をされていました。しかし更なる登山の体力作りのため、ランを始められたのが39歳、早速「熊本走ろう会」に入会。元々企画力、行動力に優れた方で、1973年、同会が全国に先駆けて企画し開催した健康マラソン「天草パールラインマラソン大会」は大成功、永谷さんは多大な貢献をされました。

元来好奇心、チャレンジ精神も強い方で、事業の開催に当たっては仲間を集め、人の繋がりをつきつくり、夢の実現に全員で取り組むことを大切にされていました。その信頼関係は出来上がると、どの事業にも多くの賛同者を得て好転するようになりました。1981年には、ハワイでのアイアンマン(トライアスロン)レースに日本人として初出場、翌年も連続して参加された経験を買われて、日本初開催「全日本トライアスロン皆生大会」の企画運営に協力、自分も選手として、熊本から大勢の参加者を引き連れて出場、大会を大成功に導き、日本トライアスロンの始祖と呼ばれるようになりました。これまで永谷さんが係われた大会開催や組織の結成などは十指を超えて、熊本での『金峰三山山岳マラソン&ウォーク』の開催や「熊本クレイジートライアスロンクラブ」の設立等数多く活動は活発化していきます。2008年に始まった「九州脊梁山脈トレールラン」は地元緑川地区の人々や山仲間が集い、スズタケや雑木で覆われた古道を切り開き、道を作り、10年を費やしてルート整備が続き全国規模のトレールラン大会の開催にこぎ付けられました。特に永谷さんの主導で、脊梁山地の地形図作成のための調査を実施、2枚の集成図に纏められた功績は大きく、それまで地形的に分かりづらい山域として敬遠されがちだった山域を登山者に開放、近年脊梁山系の登山者は大幅に増加しています。このような活躍が評価されて翌2009年には、アールビーズスポーツ財団主催「第27回ランナーズ賞」を受賞されました。

様々な団体、個人との親交は全国に及び、交流は絶えることなく続いているようでした。多忙な日々の中で、当支部の集会等は極力参加されておられましたが、これ程の実績を残されながらも、人との対応は常に誰彼となく謙虚で誠実、信頼に満ちた話しぶりは変わることはありませんでした。

印象に残る永谷さんの言葉、「面白かこつは、一人でするよりも、皆でやった方が楽しかつです」。これまでの様々なチャレンジ成功のキーワードはこれだろうと思いました。また、私達へ残したいメッセージだったのかもしれませんが。 合掌 (工藤文昭)

1 1 森林保全巡視報告書提出状況

担当 田北芳博

今年3月から下記の6件の報告書が提出されました。別紙でそのうち5件を紹介いたします。提出があった森林巡視報告書なるべく会員に見ていただきたいと思います。今後は支部報配布時に別添で送りたいと思います。17名の森林保全巡視員がおりますので、報告書の提出をお待ちしています。要点だけ1～2ページの報告でよいと思います。熊本森林管理署送付の上、皆様なるべく公開したいと考えております。

登山日	報告地	報告者
R22・3・3	岩宇土山・上福根山	千々岩 泰子
R22・3・6	親父山・障子岳・烏帽子岩	千々岩 泰子
R22・4・23	雁俣山	田北 芳博
R22・5・15	泉水山・大崩の辻	田北 芳博
R22・5・22	阿蘇高岳仙酔峡コース	土井 理
R22・5・22	阿蘇行儀松コース	土井 理

1 2 事務局より

山本 直

会員の異動

会員から会友へ

斎藤 弘毅 2022.4

会友から会員へ

前田 節子 2022.4

新会友

赤星 隆弘 2022.8

861-5513

熊本市北区鶴羽田町 1041-55

会員の死亡

永谷 誠一 2022.8

編集後記

今春は新型コロナウイルスが下火になったかと喜んでいましたが、オミクロン株・コロナの第7波の影響で、初夏から夏にかけては、登山計画がまたやりにくくなり、中止が多い状況になってしまいました。多分秋以降は第7波も収まり行動制限もないかと思うので、普段の登山ができるのではないかと期待しております。

今号に池田清志さんの高速道路沿線の里山の後半を掲載予定でしたが、まだ後半が終わっておらず今冬も登山するとのことで、私も参加したいと思いますが掲載は来年4月号に回しました。

皆様個人山行で登られている方も多いかと思いますが、登山の報告・諸処の随想などお寄せいただければありがたいです。何しろ中林前支部長から引き継いで、まだ編集など不慣れで不十分な点も多いと思います。よい会報になるように努めて参りたいと思っております。宜しくお願いいたします。

田北 芳博 Eメール yt19-57@tune.ocn.ne.jp ☎ 田北 09087611471.

